
鳥人少年 ハヤト

龍の骨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鳥人少年 ハヤト

【Nコード】

N5784U

【作者名】

龍の骨

【あらすじ】

バードニングウェーブを求めて聖チエリーヌ学園に転校してきた大鷹ハヤト、遥と葵は奪われた宝物を取り戻すツインジェルだった。そしてハヤトの仲間のソラ、ハヤブサはその悪に立ち向かっていく。

オリ主&オリキャラ紹介（前書き）

龍の骨

「今回はオリキャラ紹介です」

オリ主&オリキャラ紹介

大鷹ハヤト

イメージＣＶ 代永翼

容姿 黒髪の爽やかショートに、ツリ目である。

性格 冷静で真面目だが、根は優しい。

本作の主人公であり、遙と葵のクラスに転校してきた学生。
ジエットマンに憧れ、バードニングウェーブを求めて聖チエリーヌ
学園に転校してきた。

父から剣術を教わっているため、剣の腕は県大会に出場できるほど
だが、技術は天堂竜程ではないが、高い。砂糖入りのコーヒーを愛
飲する。

大石ソラ

イメージＣＶ 鈴村健一

容姿 金髪のウルフヘアに、タレ目。

性格 無邪気で明るい。

遙と葵のクラスメイトで、ハヤトの良き相談相手である。
ハヤトが求めているバードニングウェーブに興味を持ち、親友にな
る。

人間離れをした腕力を持つ為、『怪力少年』と呼ばれる事がある。

ハヤトを侮辱したり、何かあれば容赦が無い。

黒羽ハヤブサ

イメージＣＶ 皆川純子

容姿 茶髪のショートミディアムに顔はイケメンである。

性格 クールでキザ

ハヤトとソラのクラスメイトで、『俺に惚れる』が口癖。
協調性が無く、トラブルを起こす事もある。

かなりの女好きで、女子生徒にナンパしようとする。

冷静で真面目なハヤトを良く思っ^て無く、バードニングウェーブに
ついては興味が無い。

オリ主&オリキャラ紹介（後書き）

龍の骨

「いかがでしたか？では、次回から本編です」

プロローグ（前書き）

今回はプロローグであるため、短いです。

プロローグ

【ハヤトの部屋】

ハヤトは、ノートパソコンでバードニングウェーブについて調べていた。

ハヤト

「バードニングウェーブは、とある宇宙ステーションのトラブルで地球に散らばったんだ。この近くにもあるかもしれない……」

するとノートパソコンの画面がバードニングウェーブが反応をしている場所を表示した。

これを見たハヤトはそれを見る。

ハヤト

「これは……そして場所は……聖チエリーヌ学園!？」

バードニングウェーブが聖チエリーヌ学園に反応している事に驚くハヤト。

そして双眼鏡を持って外に出た。

今の時間帯は夜である。

ハヤト

（誰よりも早く見つけなければ、見つけなければ……）

そう思いながら走るハヤト。

その時……

向こうの港から爆発音とその煙が上がり、ハヤトはそこに向いた。

ハヤト

（何だ？）

そして双眼鏡で向こうの港を見る。

すると双眼鏡はツインテールの赤い服を着た少女と青のボブカットの青い服を着た少女が写る。

ハヤト

（あの娘達がやったのか！？まさか、バーディングウェーブに
しているのか！？）

そして少女達は、どこかへ行ってしまった。

ハヤト

（あの娘達は一体何者なんだ？）

そう思いながらハヤトは帰宅した。

プロローグ（後書き）

次回は一話です！

ハヤト

「ってかさっきの場面、もしかして……………」

鳥人現る（前書き）

ハヤト

「鳥人少年ハヤトの第一話だ！」

ソラ

「どんなのかな？楽しみだよ」

鳥人現る

【ハヤトの部屋】

教科書とバードニングウェーブ探知機をバッグに入れ、右手首にエンプレムフォーメーションをはめ、左手首にコレスポンダーをはめ、自分の部屋を出た。

【聖チェリーヌ学園の通学路】

ハヤトは昨日の夜について考えながら歩いていた。

ハヤト

（あの二人は一体何者なんだ？それに、バードニングウェーブとの関係が繋がっているかもしれない）

バッグからバードニングウェーブ探知機を取り出した。

ハヤト

（もしかしたら、あの二人にもバードニングウェーブが宿ってるかもしれない）

バードニングウェーブ探知機をしまい、そのまま聖チェリー部学園に向かった。

【聖チェリーヌ学園 一年椿組の教室】

???

「今日は転校生を紹介するぞ」

教卓の前にいるのは、副担任の天堂竜である。

天堂竜はバイラムが壊滅した後鹿鳴館香と結婚し、聖チエリーヌ学園の教師となった。

何故教師になったかは不明である。

教室の前の扉が開き、入って来たのはハヤトだった。

竜

「今日からこの学園の生徒になった大鷹ハヤト君だ」

ハヤト

「大鷹ハヤトです、よろしくお願いします」

竜

「では、ハヤト君は遙さんの隣だ」

ハヤトは指定された自分の席に移動した。

竜

「じゃあ、SHRはここまでだ。西条先生は何らかの用事で遅れてくるそうだ」

こうして午前の授業が終わり、昼休みとなった。

ハヤトは屋上でノートパソコンを開き、起動させる。

するとそこに、金髪のウルフヘアの少年が現れる。

「???

「何やってるの?」

ハヤトは少年に向いた。

ハヤト

「ああ、これかい? バードニングウェーブについて調べてるんだよ」

「???

「バードニングウェーブ?」

ハヤト

「これで治せない病気を治したり、自然を守る事が出来るんだ」

「???

「へえ」

ハヤト

「それと、これを浴びた人は、超人的な力を得る事ができるんだ」

「???

「そうなんだあ」

少年はハヤトが見ているバードニングウェーブの資料に興味を持つ
かのように見ている。

「???

「僕、大石ソラ。よろしくね!」

ハヤト

「よろしくね、大石君」

ソラ

「僕の事はソラで良いよ」

ハヤト

「そうか、よろしくねソラ」

するとハヤトのバッグからバードニングウェーブ探知機が鳴り、ハヤトはそれを取り出した。

探知機は早く点滅し、ハヤトはソラを見る。

ハヤト

「見つけた……」

ソラ

「何が？」

ハヤトはソラにバードニングウェーブが宿っている事と、何故バードニングウェーブを集めている事を話した。

ソラ

「そうなんだあゝ僕、凄い力を持つちゃったんだね」

ハヤト

「そういう事だよ。僕もだけど」

ソラ

「ええ！？ハヤトもなの！？」

ハヤト

「小さい頃、バードニングウェーブを浴びてね……………」

そしてハヤトは、少し表情を暗くする。

ソラ

「ご、ごめん」

ハヤト

「大丈夫だよ、あと、これを渡さない……………」

ハヤトが取り出したのは、エンブレムフォーメーションとコレスポ
ンダーである。

ソラ

「これは？」

ハヤト

「お願いがある、ジェットマンになって欲しい」

ソラ

「え？」

ハヤト

「バードニングウェーブは、宝石や美術品に宿っている事がある。
誰かがそれを見つけ出し、悪用されたら取り返しのつかないこと
になる」

これを聞いてソラは、エンブレムフォーメーションとコレスポnda
ーを自分の両手首にはめた。

ソラ

「分かった、僕と君は友達だし、友達の頼みを断るわけにはいかな
いよ」

ハヤト

「ソラ……」

チャイムが鳴り、二人は教室に戻った。

午後の授業が終わり、放課後となった。

ハヤト

「……」

ソラ

「何やってるの？」

ハヤトはコレスポndaで何かを聞いている。

ソラ

「……」

ハヤト

「!？」

何かに気付いたのか、ハヤトはコレスポndaの通信を切る。

ソラ

「どうしたの？」

ハヤト

「今夜、ティアラが美術館に運ぶらしい」

ソラ

「え！？どうして分かったの！？」

ハヤト

「これだよ」

すると向こうから小鳥のロボットがやって来て、ハヤトの肩に乗った。

ハヤト

「この小鳥ロボで、理事長の近くの木に止まって聞いていたんだ」

ソラ

「凄いね！」

ハヤト

「僕の家に来るかい？ご飯を用意するよ」

ソラ

「良いの！？じゃあ一旦帰ってから行くよ！」

こうしてハヤトとソラは、自分の家に帰った。

【遙と葵の屋敷】

遥

「ポケてん、今日も変身よろしくね」

葵

「力を貸してくださいね」

オレンジ色のツインテールをした少女、水無月遥と青いボブカットの神無月葵が、ポケてんというアイテムを取り出していた。

ポケてんは、ツインエンジェルの力を引き出すアイテムであり、遥と葵はこれでツインエンジェルに変身している。

因みに天使ちゃんを呼び出す事が出来る。

ポケてんの画面が光り出し、天使ちゃんが現れる。

天使ちゃん

「さあ、行くテンよ！」

そして遥と葵はうなずく。

天使ちゃん

「OK！遥、葵、ツインエンジェルに変身だテン！」

遥

「レッツゴーファイバータイム！」

葵

「ラブリーエンジェル！」

遙はレッドエンジェルとなり、葵はブルーエンジェルとなった。

ブルーエンジェル

「愛と勇気で百発百中！」

レッドエンジェル

「皆の笑顔を取り戻す！」

レッドエンジェル ブルーエンジェル

「快盗天使！ツインエンジェル！」

こうしてツインエンジェルは、グライダーに乗って本物のティアラを運んでいる運搬車が走る高速道路へ向かった。

【ハヤトの家の地下】

ソラ

「あれ？真っ暗だよ？」

家の地下の中は真っ暗であり、ハヤトは地下の電気をつける。

明るくなり、ソラは目の前にある物を見て驚く。

それは、ジェットマンが乗っていたジェットマシンがあったからだ。

ソラ

「ハヤト、これ……」

ハヤト

「ああ、これかい？僕の家は元々、ジェットマンの基地だったんだ」

ソラ

「え！？ここが！？」

ハヤト

「うん、誰にも悪用されないように、小田切という人が、この土地を売ったんだ。そしてこのジェットマシンを、地下に隠しておいたんだ」

ソラ

「そうなんだ・・・」

ソラは少し深刻な顔をする。

ハヤト

「グレートイカロスと、テトラボーイはあっただけど、その行方が分からないんだ」

ソラ

「でも、もしかしたら解体されてるかもしれないよ！？」

ハヤト

「大丈夫だよ、絶対に解体される事はないから。きっとどこかに隠されているかもしれないよ」

そしてハヤトは、フライトスーツに着替え、ヘルメットを被った。

ハヤト

「さあ行こう、ティアラを守る為に」

ソラ

「……うん！」

ソラもフライトスーツに着替え、ヘルメットを被った。

ハヤトはジェットホークに乗り、ソラはジェットオウルに乗った。

そして公園の近くの海では、水面からカタパルトが出てくる。

ジェットホークとジェットオウルは航空用エレベーターの位置にいた後、エレベーターはカタパルトまで上がっていく。

カタパルトに着き、ジェットホークはジェットエンジンを入れる。

ハヤト

「ジェットホーク！発進！」

そしてジェットホークはカタパルトから出る。

ソラ

「ジェットオウル！出撃！」

ジェットオウルもカタパルトから出た。

その頃、ツインエンジェル達は……

ティアラを狙うメカ達と倒すレッドエンジェルとブルーエンジェル。

レッドエンジェル

「エンジェル！パーンチ！！！」

右手が光だし、メカ達に突きを入れて吹き飛ばし、後ろにいる三体のメカにぶつかり、爆発した。

ブルーエンジェル

「エンジェル！アロー！！！」

ブルーエンジェルが放った矢が増え、多数のメカを貫いた。

その時、ティアラが宙に浮いた。

緑色のゴスロリ服を着ている少女と警備員のような服を着ている男を乗せた大型のメカが現れた。

ティアラはその少女の手に渡ってしまった。

???

「へえゝあんた達中々やるじゃない。でも、調子に乗ってると痛い目みるっしょ、何ていったってこのサロメ様が相手っしょ」

????2

「そうだそうだ！サロメ様は世界で一番だ！俺とサロメ様の愛の力を、見せてやる！」

少女サロメはにやけ、それを褒める？男、アレキサンダーに少し引くレッドエンジェルとブルーエンジェル。

そしてメカは、アーム伸ばそうとし、レッドエンジェルはかわすが、ブルーエンジェルは掴まれてしまう。

レッドエンジェル

「葵ちゃん!」

ブルーエンジェルを掴んでいるアームにチョップし、アームは爆発してブルーエンジェルを離す。

そしてアームはレッドエンジェルに伸ばすが、かわされてしまい、攻撃されて爆発する。

サロメ

「ふーん、あの赤いの狙って」

メカはアームをしまい、額から砲台らしきものを出す。

その時……

空からハヤトとソラが現れ、二人はうまく着地する。

これを見たレッドエンジェルとブルーエンジェルは驚愕する。

レッドエンジェル

（ハヤト君!? 何で!?!）

ハヤト

「予想通り、狙っている奴は運搬車を狙う……誰だか知らないけど、ティアラは返してもらっよ!」

サロメ

「誰が返すっしょ! それにあんた達何者!?!」

ハヤト

「俺達は、ジェットマンだ!」

ジェットマンと聞いたサロメとツインエンジェルは驚く。

ハヤト

「行くぞ!」

ハヤト ソラ

「クロスチェンジャー!!」

右手首にはめているエンブレムフォーメーションのボタンを押し、ハヤトは赤い光に包まれる。

光が晴れると、レッドホークになり、ソラは黄色い光に包まれ、晴れるとイエローオウルになった。

レッドホーク

「レッド!ホーク!」

イエローオウル

「イエロー!オウル!」

二人は名乗った後、レッドホークはブリンガーソードを取り出して構え、イエローオウルはバードブラスターを取り出した。

鳥人現る（後書き）

次回、バードニンググウェーブを浴びた残り三人の仲間を集めるハヤトとソラ、五人の戦士が集まるとき、ジェットマンになる！

次回『鳥人戦隊集结』

鳥人戦隊集結（前書き）

遥

「少し、頭冷やそうか……」

葵

「いっぺん、死んでみる？」

ソラ

「二人共怖いよお——！！！！！！！！」

鳥人戦隊集結

レッドホークはブリンガーソードで向かって来るメカの腕を切り、イエローオウルはバードブラスターで応戦する。

サロメ

「くぅ～あのジェットマンという奴、何かム力つくぅ～！！！！」

メカの砲台から粘着弾が放たれ、レッドホークはそれをかわす。

しかし、不覚をとってしまい、粘着弾に当たって壁に叩きつけられる。

レッドホーク

「ぐっ抜けない……………」

サロメ

「おーほほほほ、ざまあ見るっしょ！」

ブルーエンジェル

「レッドホークさん！」

そしてブルーエンジェルは矢をレッドホークに向ける。

ブルーエンジェル

「エンジェル！アロー！！！！」

ブルーエンジェルが放った矢が増え、粘着弾は剥がされ、レッドホークは動けるようになる。

レッドホーク

「じゃあ今度は僕の番だ！」

レッドホークは飛び、ジェットウィングを広げ、サロメに向かって滑空する。

サロメ

「と、飛んだっしょ！？」

サロメが持っているティアラを取り、ツインエンジェルとイエローオウルの上に着地する。

レッドホーク

「このティアラは返してもらおう」

そして再び飛び、ジェットウィングを広げ、空に舞い上がり、イエローオウルはバードブラスターとブリンガーソードと組み合わせ、ジェットハンドカノンにする。

イエローオウル

「行くよ！ジェットハンドカノン！」

サロメのメカに放ち、メカは喰らって煙を出す。

レッドホーク

「喰らえ！飛行斬り！！」

飛行斬りでメカを斬った。

レッドエンジェル

「よーし！行くよー！！」

レッドエンジェルは高く飛ぶ。

レッドエンジェル

「エンジェル、トルネード！！」

高速回転しながらキックをし、メカは爆発した。

そしてレッドエンジェルは着地をする。

レッドエンジェル

「手助けしてくれてありがとう」

レッドホーク

「君達は確か、ツインエンジェルだね？」

ブルーエンジェル

「えっと、そうですねど……何故……」

レッドホーク

「君達の事は、調べてもらった。じゃあまた」

するとジェットホークとジェットオウルが現れ、レッドホークとイエローオウルは自分のマシンに乗ってどこかに行ってしまった。

レッドエンジェル

「あのジェット機、どこかで見たような……」

ブルーエンジェル

「とにかく、お家に帰りましょう」

こうしてレッドエンジェルとブルーエンジェルは変身を解き、屋敷へ帰ったのであった。

翌日

ハヤトとソラは、バードニングウェーブ探知機を持って校内を回っていた。

ハヤト

「中々見つからない。ソラ、別々に分かれて探そう。もしかしたら見つかるかもしれない」

ソラ

「分かったよ、じゃあ見つかったら連絡お願いね」

こうしてハヤトとソラは、別々に分かれてバードニングウェーブに浴びた生徒を探すのであった。

【サロメの屋敷】

サロメ

「分かってるっしょ、今度こそ成功してみせるっしょ」

サロメは携帯で誰かと連絡を取っているようだ。

サロメ

「じゃあ成功したらギャラお願いね」

そして携帯を切った。

アレキサンダーはオムレッツをサロメの所へ持っていき、テーブルに置いた。

サロメ

（あのジェットマンという奴等、何者っしょ。でもどこかで聞いたような・・・）

昨晚の出来事で首を傾げるサロメであった。

【聖チエリーヌ学園】

バードニングウェーブ探知機が反応し、その場所へ向かった。

ハヤト

（まさか、もう見つかったのか！？）

教室に入り、見つかったのは・・・

???

「あれ？大鷹君？」

カメラを持っており、眼鏡をかけた少女、新聞やよいであった。

ハヤト

「新聞さん・・・」

そしてバードニングウェーブ探知機をやよいに近付け、早く反応し

た。

やよい

「大鷹君!？」

ハヤト

「見つけた、やっと見つけた」

やよい

「な、何を!？」

こうしてハヤトは、やよいにバードニングウェーブが宿っている事と、集めている理由とジェットマンについての事を話した。

やよい

「なるほど」じゃあ私もジェットマンという戦士になれるんだ」

ハヤト

「そうなんだ。お願いがあるんだけど、ジェットマンになって欲しいんだ」

やよい

「え?それって・・・」

ハヤト

「今すぐじゃなくても良いよ。ゆっくり考えて・・・」

やよい

「私、ジェットマンになる!」

これを聞いたハヤトは、目を細くする。

やよい

「小さい頃から、正義の味方に憧れてたんだ。それも私になれるなんて、すごく嬉しいよ！」

ハヤト

「そ、そうなんだ……」

やよい

「という訳でよろしくね、大鷹君」

ジェットマンになる事に張り切るやよいを見て苦笑いをするハヤトであった。

【屋外プール】

ソラはバードニングウェーブの探知機が反応してここに来たのであった。

ソラ

「うゝん確かにこの辺りだけど……誰だろ？」

プールからショートカットに小麦色の肌をした少女が出てくる。

同時に探知機の反応が早くなる。

ソラ

「あれ？もしかしてさつきちゃん？」

さつきと言つ少女は、ソラに向いた。

さつき

「ソラじゃん、どうしたの？」

ソラ

「みつけた。戦士を」

さつき

「戦士いゝ？あたしが？」

ソラはさつきに、バードニングウェーブが宿っている事とジェットマンの事について話した。

さつき

「へえゝ、じゃあソラはジェットマンなの？」

ソラ

「そうなんだ。バードニングウェーブを集めて、世間に役立てるって感じ？」

さつき

「ふうゝん、あたしがジェットマンになって大鷹の手伝いをしろって事なの？」

ソラ

「ハヤトは本気なんだよ。世界中にバードニングウェーブの事を世間に知らせるって」

さつき

「そう、じゃああたしなるよ」

ソラ

「え！？ちよつと決断が早すぎない？」

決断が早い事に驚くソラ。

ソラ

「辛い戦いになるけど、それでもなるの？」

さつき

「それくらい、覚悟は決めてるよ。正義の為に戦う、こづいこのやつてみたかったんだ」

そしてソラは、エンブレムフォーメーションとコレスポンダーを渡し、さつきは早速つけた。

【二階の廊下】

茶髪のショートミディアムの男子学生が、女子生徒にナンパしていた。

???

「じゃあ、お前が行きたい場所に連れてってやる」

女子生徒

「良いの？」

???

「ああ、ホントさ」

女子生徒

「ありがと〜ハヤブサく〜ん」

男子学生、ハヤブサは女子生徒と一緒にどこかへ行こうとする。

すると、ハヤブサの前にハヤトが現れた。

ハヤト

「君は確か、黒羽君だったよね」

ハヤブサは舌打ちをし、ハヤトに近付く。

ハヤブサ

「ああ、真面目な転校生君か。何の用だ？」

ハヤト

「今から話すよ」

ハヤブサ

「何をだ？」

女子生徒は、そのまま帰っていった。

ハヤトはハヤブサにバードニングウェーブについての事、そして宿っている事を話した。

ハヤブサ

「くだらねえ、そんなもの集めて、何の為になるんだ？」

ハヤト

「病氣や治せない怪我を治すことだって出来るよ!」

ハヤブサ

「そんなの、俺には関係ない」

そう言つてハヤブサは行こうとする。

ハヤト

「君もバードニングウェーブが宿ってるんだよ!関係あるじゃないか!どうしてそんな事を……」

ハヤブサ

「しらねえな。とにかくお前等で頑張りな」

そしてハヤブサは、どこかへ行つてしまった。

ハヤト

(黒羽君……)

その時、女子生徒達が何かを追いかける音がし、ハヤトはその悲鳴をした所に行く。

たどり着いた先には、バスタオル姿の女子生徒達と遥と葵、そして唯人とそのそっくりの男がいた。

バスタオル姿の女子生徒達を見て顔を赤くし、何があつたのかを唯人に尋ねる。

ハヤト

「何があつたんですか!？」

唯人

「ああ、最近噂になつてゐる制服の盗難事件の犯人を見つけた所だ」

ハヤト

「そ、そうだったんですか」

そしてハヤトは犯人を見る。

すると遥はハヤトに気付く。

遥

「あれ？ハヤト君？」

ハヤト

「水無月さん」

遥

「確か、ソラ君と校内を周つてたけど、何で？」

ハヤト

「い、いやあその〜訳があつて……」

遥

「訳つて？」

ハヤト

「水無月さんには関係のない事だけど……」

すると遥はハヤトの顔に近付く。

遥

「ホントに？」

ハヤト

「ホントだよ・・・じゃあソラが待ってるかもしれないから、じゃあね」

遥

「ああ！ちよつと待ってよ」

遥は止めようとするが、ハヤトはどこかへ行ってしまった。

ハヤトは走りながらコレスポンダーでソラに連絡を取る。

ハヤト

「ソラ、こっちはどう？」

ソラ

『見つかったよ。そしてすぐに仲間になってくれたよ』

ハヤト

「ホントに？僕もだよ」

ソラ

『ホントに！？じゃあ後一人だね！』

するとハヤトは、少し暗い表情になる。

ハヤト

「五人目は見つかったけど、仲間になってくれなかった」

ソラ

『そっか・・・じゃあ屋上で待ってるよ』

ハヤト

「分かったよ」

こうしてハヤトは、屋上へ向かった。

【屋上】

ハヤト

「ソラ、そして新聞さんと紺藤さん」

屋上に着くと、やよいといつきがいた。

ソラ

「へへ、僕が呼んだんだ」

やよい

「二代目のジェットマンが、今ここに集まるってね」

さつき

「バードニングウェーブ、集めるんでしょ？」

ハヤト

「そっだよ、じゃあ早速バードニングウェーブについて話すよ」

こうしていつきとやよいに、バードニングウェーブについての事と、その危険性を教えたのであった。

そしてソラと一緒に話し合った。

さつき

「大量のバードニングウェーブを浴びたら、死に至ったり、怪物になったりするのか？」

やよい

「散らばったバードニングウェーブを集める」

ハヤト

「バードニングウェーブは、宝石に宿っている可能性が高い。誰よりも先に、バードニングウェーブを吸収しないと、悪い事に使われてしまう」

さつき

「でもさあゝもし宝石じゃなく、他の物に宿っていたら？」

さつきはハヤトに尋ねる。

ハヤト

「確かに、宝石じゃなく、他の物に宿った場合でも吸収する」

ハヤトはさつきの問いに答える。

さつき

「そういえばソラの父親は？」

するとソラは少し暗い表情になる。

ソラ

「僕の父さん、バイラムに殺されたんだ」

これを聞いたさつき達は驚く。

さつき

「ごめん……」

ソラ

「大丈夫だよ、気にしないで。それとハヤト、聞きたい事があったんだよね」

ハヤト

「ああそうそう。黒羽君の事、知ってる？」

するとさつきとやよいは表情を変える。

さつき

「あの一匹狼か。あいつ、結構女好きでナンパするよ」

ハヤト

「ナンパするのかい？」

やよい

「しかも、協調性が無く、中学時代にトラブルを起こしていたとか……」

ハヤト

「そうなんだ。黒羽君に、バードニングウェーブの反応があった」

ソラ

「ええ！？あの一匹狼に！？」

ハヤト

「信じてるよ、僕達の所に来るまで」

ハヤトはそう言うが、ソラ達是不信感を抱いている。

ソラ

「来ないよ、あいつは絶対来ない。人に命令されるのが嫌うんだ」

ハヤト

「何言ってるんだよ、黒羽君が仲間になるからこそ、信じてるんだよ。僕は信じる、黒羽君が来る事を」

物陰でハヤト達を見るハヤブサ。

ハヤブサ

「……くだらねえ」

そう言つて、屋上から降りていったのであった。

ハヤト達のコレスポンダーが反応し、屋上からグランドを見る。

ソラ

「あれは……」

よく見ると、ツインエンジェルとメカに乗っているサロメとアレキ

サンダーが戦っていた。

やよい

「あれってツインエンジェルじゃない!？」

ハヤト

「どうやら苦戦してるようだね。助けに行こう!」

そしてハヤトは屋上から飛び降りようとするが、やよい達に止められる。

やよい

「やめたほうが良いって!」

さつき

「そうだよ!ここから飛び降りたら死ぬって!」

しかし、それでもハヤトは冷静である。

ハヤト

「僕達はバードニングウェーブを宿っている。それに僕達はジェットマンだ」

やよい

「それはそうかもしれないけど……」

ハヤト

「変身する方法は、エンブレムフォーメーションにあるボタンを押して!」

さつき

「こ、これ!？」

ハヤトとソラは、そのままダイブするように飛び降りた。

ハヤト

「行くよソラ！」

ソラ

「うん！」

ハヤト ソラ

「クロスチェンジャー!!!」

ハヤトとソラはエンブレムフォーメーションのボタンを押し、光に包まれ、レッドホークとイエローオウルになった。

そしてハヤトとソラはジェットウイングを広げた。

やよい

「もう、無茶すんだから」

さつき

「私達も行くっ！」

やよい

「ええ!?!ちよつとさつき!?!もぉ!?!!!」

二人もダイブするように飛び降りた。

さつき やよい

「クロスチェンジャー!!!」

さつきとやよいはエンブレムフォーメーションのボタンを押し、さつきは青い光に包まれ、晴れるとブルースワローになり、やよいは白い光に包まれ、晴れるとホワイトスワンになった。

ホワイトスワン

「ええ!?これどうやって!？」

ブルースワロー

「私も知らない!」

地面までわずかな所でジェットウィングを広げ、レッドホーク達に向かっていった。

レッドホークとイエローオウルはツインエンジェルと共に戦っているが、苦戦していた。

レッドエンジェル

「ううゝ昨日より強くなってるゝ」

サロメ

「ほーっほほほ、ツインエンジェルとジェットマン、私の敵ではないっしょ!」

イエローオウル

「ここまで言われちゃ、黙ってられないね!」

ブルーエンジェル

「とにかく、何とかしないと……」

アレキサンダー

「流石サロメ様……！」

サロメ

「じゃあ、止めといくつしょ！」

メカはハンマーを振り回し、レッドホーク達とツインエンジェル達に向かって投げる。

その時、レーザー光線がハンマーを弾いた。

レッドホーク

「これはバードブラスター……まさか!？」

振り向くと、バードブラスターを構えているブルースワローとホワイトスワンがいた。

ホワイトスワン

「ごめ〜ん、遅れちゃって」

レッドホーク

「新聞さん、それに紺藤さん」

サロメ

「ちよつと!? ジェットマンが増えた!？」

ブルースワローとホワイトスワンが来て驚くサロメ。

????

「俺も加えてもらおうか……」

振り向くと、ハヤブサがいた。

イエローオウル

「ハヤブサ!？」

レッドホーク

「黒羽君、来てくれたんだね」

ハヤブサ

「勘違いすんじゃないねえ、俺はこいつらが気に食わないだけだ」

レッドホーク

「それでも、来てくれただけで嬉しいよ」

そしてエンブレムフォーメーションとコレスポンドーを渡し、ハヤブサはつけた。

ハヤブサ

「確かこうだっけ？クロスチェンジャー!」

エンブレムフォーメーションのボタンを押し、黒い光に包まれ、晴れるとブラックコンドルになった。

サロメ

「また増えたつしよ!？」

アレキサンダー

「おい！いきなり増えるなんて反則だぞお！」

レッドホーク

「これで五人そろった！」

そしてレッドホーク達は構える。

レッドホーク

「レッドホーク！」

ブラックコンドル

「ブラックコンドル！」

イエローオウル

「イエローオウル！」

ブルースワロー

「ブルースワロー！」

ホワイトスワン

「ホワイトスワン！」

レッドホーク

「鳥人戦隊！」

全員

『ジェットマン！』

そして後ろの背景に、ジェットマンのマークが浮かび上がる。

レッドエンジェル

「すごい、ジェットマンかあ」

ブルーエンジェル

「感心してる場合じゃないですよ」

レッドエンジェルはジェットマンを見て感心し、ブルーエンジェルは冷静にツッコむ。

レッドホーク

「行くぞ！」

そしてジェットマンとツインエンジェルはサロメのメカに向かって走った。

レッドホークはプリンガーソードで切り刻み、レッドエンジェルは格闘で攻撃し、イエローオウルは岩石を持って走る。

イエローオウル

「喰らえ！岩石落としいーーーー！！！！」

岩石を投げ、メカは直撃し、胴体が凹む。

ブラックコンドルはメカのハンマーを鎖ごと取った。

ブラックコンドル

「これでも喰らいな！」

ハンマーを投げ、メカに直撃する。

ホワイトスワンとブルースワローはメカに抱きつく。

ホワイトスワン　ブルースワロー

「スワン・スワロークロー！」

ホワイトスワンとブルースワローは引掻き、メカは煙を出して腕の所が爆発する。

ブルーエンジェル

「エンジェル〜アロー！！！！」

ブルーエンジェルが放った矢が増え、メカに沢山刺さり、動かなくなった。

サロメ

「いやあ！動かなくなった！？」

アレキサンダー

「くう〜なんて野郎だ！」

そしてレッドホーク達は、ジェットハンドカノンを構えていた。

レッドホーク

「バードボンバー！」

五人同時に発射し、メカに直撃し、下半身が爆発する。

レッドエンジェルは高く飛ぶ。

レッドエンジェル

「エンジェル、トルネード!!!!!!」

回転を加えてキックし、メカはそれを喰らって爆発した。

レッドエンジェルはうまく着地し、レッドホーク達は変身を解いた。

ハヤト

「これで、もう大丈夫……」

レッドエンジェル

「そうだね、でもどうしてジェットマンに？」

レッドエンジェルはハヤトに尋ねる。

ハヤト

「君達と同じように、平和を守るのさ」

レッドエンジェル

「？」

レッドエンジェルは首を傾げる。

ソラ

「まあ、ハヤブサが来たことだし、ジェットマンになってよかったよ」

するとハヤブサはエンブレムフォーメーションとコレスポンダーを外し、ハヤトに渡した。

ハヤブサ

「どうやら俺に向いていないようだ」

ハヤト

「どうしてだい！？黒羽君！」

ハヤブサ

「・・・・・・・・」

そしてハヤブサは黙って去っていった。

ソラ

「折角五人そろったのに・・・・・・・・」

ハヤブサが去って行くことに悔いを見せるソラ。

その後、ハヤト達は自宅に帰った。

物陰では、二つの光が光っていた。

鳥人戦隊集結（後書き）

ハヤト達から離れたハヤブサ。その時、口ボらしき怪人がハヤト達の前に現れる。

次回

『新次元戦団』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5784u/>

鳥人少年 ハヤト

2011年10月7日03時16分発行